
或る男子校のガノタの日常

シャルロット党员N

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

或る男子校のガノタの日常

【Nコード】

N8092Y

【作者名】

シャルロット党員N

【あらすじ】

ガノタ部。

それはガンダムに心奪われた男たちの集まり。

そこで今一つの物語が動き出す…

活動日誌第一頁 ガノタ部の日常の一例

「この世界は歪んでいるっ！！！」

「黙れ弘瀬。」

「俺は、ジャンヌと添い遂げる！！！」

「嶺樹。お前も黙れ。」

弘瀬が英語の小テストをぐしゃぐしゃに丸めながら馬鹿を言い、嶺樹が緋弾のアリアを読みながらジャンヌに萌えている。

正直、二人ともとてもウザい。ベリーウザい。

「…理子の方が可愛かるうが、このゆとりめが。」

「黙れや多中ア、あ？戦争すつか？お？」

「…んだコラ、理子のが可愛いだろうがふざけてんじゃねえぞ。お？」

なにやら多中と嶺樹が緋アリの最萌ヒロイン決定戦をはじめた。

「…はあ、どうしてこう残念なんだ。」

「坊やだからさ…（キリッ）」

「…はあ。」

俺、鷹嘴たかはし 武尊ほたかは深い深い溜め息をついた。

私立麻乃中学・高等学校。神奈川県神子保にある90年の歴史を誇る私立学校だ。

その文化部室棟二階に居をかまえる大衆文化研究会、通称、ガノタ部。

これはガノタ部で日夜繰り広げられるガノタたちの戦いの物語である。

嘘だけだ。

「き、キタ…遂にキタ。HGUCザク？R2黒い三連星仕様発売決

定キターー！ー（＾　＾）！！！！」

ガタンツ、部員全員が立ち上がった。弘瀬のほうを見ている。

…弘瀬：貴様今何と言った…

「バンダイさん…また戦争がしたいのか！あんたたちは！！」と、弘瀬。

「バンダアアアアアアアア！！」

と、嶺樹。

「バンダイの開発部は化け物か…」なんて言ってるのは多中。俺含め部員全員テンションマックスだった。

ていつかどういいう事よ。

ザク？R2黒い三連星仕様ってマジでどういいう事よ…

最近のバンダイナムコはガノタの財布をどうにかしたいとしか思えませんです。

〜10分後〜

10分かけてやっとテンションが元に戻りました。ええ、はい。皆で”哀戦士”を歌っていたら隣から怒鳴られました。

「え〜、じゃあ今日の議題は〜」『議題は？』

「ドキッ！ザクバリエーションだらけの部内戦争！！です。」
「ぱちぱちぱちぱち」

部長で中3の深浦 琢三みつらの言葉に部員たちが拍手をおくる。

「ちなみにこの議論で至高のザクバリエーションとして認められたモノは文化祭展示用にまとめてもらうのでそのつもりでね〜。」

『はい。』

皆仲良く返事をした。

そしてっ！！声を揃えてエ！

！！

『ガンダムファイトオ！！レディーー！！ゴオオオオ！！』
戦争が、始まった。

「先ずは俺からいかせてもらおう。」
そう言つて立ち上がったのは中3の嶺樹^{みねき} 大智^{だいち}だ。

「俺は至高のザクバリエーションにザク？ A型サイド3宙域仕様を推す。」

なるほど、そうきたか…

「型式番号MS-06-A。ザク？ A型のサイド3宙域仕様。初出はガンダムAのMSV-Rだ。」

ザク？ A型（初期生産型とも言う）はザク？の一年戦争初期に量産されたタイプだ。

ノーマルのザク？との違いは両肩のショルダーアーマーがザク？の左肩と同じスパイクがついていないタイプである点だ。

サイド3宙域仕様はカラーリングが緑から白と青に変更されている。

「このザク？ A型サイド3宙域仕様はA型が試験量産の後にサイド3の士官学校において運用されたタイプだ。」

嶺樹は眼をキラキラと輝かせながら続ける。

「多くの士官たちがこの機体に育てられ、生き延びた。つまり、グフもドムもこの機体があつたればこそ、その性能が発揮されたと言つていいだろう。」

「そして見るがいい、この無骨なショルダーアーマーを。ザク？の系譜を感じさせるこの肩がMS^{モビルスーツ}の進化の歴史を感じさせる！」
段々と嶺樹の語りに熱が入ってきた。

「このような面から見てもザク？ A型サイド3宙域仕様が至高のザクバリエーションであることは明らかだ！！あえて言おう、神であると！！以上だ！！」

熱が入った語りを終えて嶺樹は何やら賢者モードに入っている。

「…聞き捨てならんな。貴様MSV-Rなぞというゆとり用MSVに何が分かるか…」

「ああん！？やんのかコラ、お？」

「…黙れや。あ？」

バチバチとメンチをきり、嶺樹と多中が喧嘩を始めやがった。

まあ、いつも通りではあるんだが。「あ？お？コラ。」

「…死ねや、お？」

何やらヒートアップしてきてしまっている。

このままだと殴り合いに発展しそうだ、止めないといけないので深浦部長を見た。

「二人とも仲良くしようね？」

「…すいませんっしたっ！！」「」

深浦部長が（*、*）みたいな顔をして二人を諭すと二人は仲良く土下座

した。

美しい土下座だった。

深浦部長は原初的恐怖を呼び起こさせる笑みをたたえながらフッフ

と笑っている。
深浦部長のあのにこやかなモードを部員たちは”ぬばたまの黒き賢蛇モード”と呼んで恐れている。

閑話休題。

「…ゴホン、では気を取り直して。」

多中が場を仕切り直した。

多中、フルネームは多中^{たなか} 狛護^{りょうご}。

与えられた二つ名は”灰塵の死神アッシュ”。

基本は静かな奴なんだがかつてマジギレしてクラスを恐怖のどん底に突き落とした事からそんな二つ名を与えられている。

「…俺は至高のザクバリエーションにザク？R1型量産カラーを推薦しよう。」

ザク？R1型。

型式番号MS-06-R。

ザク？の脚部にブースターを増設した高機動仕様量産型だ。

「…俺はご託を並べるつもりはない。ただ好き、それだけだ。」

簡潔だった。

質素とさえ言っている。

なにこの漢らしさ、惚れそう。

嘘だけど。

「……終わりだが？」

終わりだった！ジョークじゃなかった！！

「はあ、まあ良いか。じゃあ俺いくわ。」

そう言っただち上がったのは中3の変態の中でも嶺樹に並ぶレベルの変態、弘瀬ひろせ 龍汰りゅうただ。

所有性癖が酷い。

ロリコン、ブラコン（弘瀬は弟を溺愛している）他、ありとあらゆる性癖を併発した真性の変態。

「俺はザクウォーリ『潰れる種厨。』酷い！！」

うん、まあ皆ザクウォーリアをザクバリエーションと認めはしないよな。俺含め。

「わかったよ…じゃあ…」

弘瀬がSEED系を覗いた中から選び始める。

この戦争、第二幕が開始した。

30分経ったが全然決まらん。

ガノタ3人集まったら騒がしい、とゆうか五月蠅いと言っがもう公害だろコレ状態。

現在の候補（一応は厳選した）

・ザクキャノン

・ザク？G型

・ディザートザク
・ザク？後期生産型

という感じた。

で、部員たちとはというと…

嶺樹「ザクキャノンだろうが、お？コラ。」

弘瀬「それでも！それでも僕は！！ザク？G型が好きだ！」

多中「…チツ、にわかか…ディザートザクに決まってるだよ。」

深浦「ザク？後期生産型だよ！異論は認めないよ！」

さつきからずっとこんな感じ。

何だよコレ。うざいよ。

キレちまおうかな…マジギレしてしまおうかな…

深浦部長までテンションマックスなので部屋はいまや戦場一歩手前。
手がつけられない。

つーかもうなんかグダグタだな。

ガラッ！

その時突如として部屋の引き戸が開かれた

「待たせたな！！（キリッ）」

「で、多中あザクキャノンはビツクガンが無かったらダサいだろうが。」

「ごめんなさい、すいませんっしたっ！！無視しないで下さい！！！」

…はあ、まためんどくさいのが来た。

「やあ〜白鞍くんじゃないか〜」

部長が親しげに話しかける。

やってきたのはマクロス部部長の白鞍しやくわ 智博ともひろだ。

ラクロス部ではない、マクロス部だ。

いやマジで。

「今日は貴様らに勝負を挑みにきた！！！」

うわ、またかよ。

この男、深浦部長にいつも試験で勝てないからかなにか知らんがこ

とあるごとに勝負を挑みにくるのだ。

「え〜めんどくさい。」

ま、深浦部長が勝負を受けるとは思わないが…

「ジャンヌのストラップをやるぞ?」

「うける。」

あれ!? 受けちゃった!?

受けちゃったの!?

ジャンヌのストラップで深浦部長轟沈!?

「今日の勝負は、オセロだ!!!」

10分後

「負けた…」

弱っ!! 白鞍さん弱っ!!

10分間に通常の三倍負けるとかどこの彗星さんだよ!!

「まだやるの?」

「や、やる。勝ってみせる!!!」

5分後

「…………ま、け、た。」

…一周回ってこの人実は凄いいんじゃないかと思いはじめました。

この人阿修羅をも凌駕する弱さだよ…

「早くジャンヌのストラップくれない?」

なんか深浦部長は深浦部長でジャンヌのストラップに心奪われた男になってるし。

きーンきーンかーンきーン

チャイムが鳴り、下校時刻を知らせる音楽がなり始めた。

今日の音楽は「ash like snow」だ。

うん、この曲選はアイツの仕業だな。

そう俺は確信する。

そう、”Ghost”の名を手にいれた幽霊部員部の部長、ガノタ部唯一の幽霊部員。
九^{くほた}菩多。

奴の下の名前を知る者はいない。

まあ、ただ単に部活に来ないから名前を知らないだけなんだけどナ
！！

「フッフ、ガノタ部よ。恐怖するが良い。この私の存在に。」
人のいない教室で一人の男が呟いた。
が、この呟きをしる者は彼の他には誰もいない…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8092y/>

或る男子校のガノタの日常

2011年11月23日23時55分発行